

寄付金活用事業（制度概要①）

○ 寄付金制度の創設経緯

諸外国においては、すでに寄付金付きの図柄入りナンバープレートが使用されている例があり、日本においても、ナンバープレートの多角的な活用を図る観点から、ラグビー・オリパラの開催支援や、地域振興・観光振興等に活用するため、図柄入りナンバープレートの導入と同時（平成29年）に創設

<海外事例>



アメリカ：ニューヨーク州
ニューヨーク州の観光振興



オーストラリア：クイーンズランド州
乳がんの予防・治療の啓発

○ 寄付金の使途

ナンバープレートの種類によって寄付金の使途は異なり、地方版図柄入りナンバープレートについては、対象地域の交通サービス改善（利便性向上等）、観光振興、交通事故防止等に資する取組みを使途としている。

ラグビーワールドカップ特別仕様ナンバープレート	会場までの輸送力の増強等 ・主要駅や空港から会場までのシャトルバス運行事業等(約5,562万円)
東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会特別仕様ナンバープレート	ノンステップバス、UDタクシーの整備 ・ノンステップバス75台(約6,263万円)、UDタクシー345台(約7,342万円)
地方版図柄入りナンバープレート	対象地域の交通サービス改善(利便性向上等)、観光振興、交通事故防止等に資する取組み ・令和元年度:熊本(約358万円) ・令和2年度:香川(約97万円)、徳島(約22万円) ・令和3年度:熊本(約698万円)、徳島(約21万円) ・令和4年度:弘前(約114万円)、鳥取(約78万円)、船橋(60万円)、葛飾(約57万円)等
全国版図柄入りナンバープレート	交通サービスの改善・観光振興、交通事故の削減等に資する取組み (助成対象事業の選定方法等を検討中)
大阪・関西万博特別仕様ナンバープレート	大阪・関西万博の開催に関連した交通サービスの充実等 (開催年度及び前年度にあたる、令和6~7年度目途の使用を想定)

寄付金活用事業（制度概要②）

○ 寄付金の助成対象事業一覧

1. 公共交通機関等のバリアフリー化に資する事業

（事業の例）

- ・ノンステップバス、リフト付きバス、ユニバーサルデザインタクシーの普及
- ・移動支援のための福祉車両の購入
- ・観光地設備のバリアフリー化に係る取り組み 等

2. 公共交通の輸送の円滑化、輸送力の強化に資する事業

（事業の例）

- ・公共交通の速達性・定時性の確保や輸送能力の増大を可能とするBRT（Bus Rapid Transit）の普及
- ・イベント等における臨時バスの運行、周遊バスの発行 等

3. 公共交通機関等の利便性の向上・観光旅行客の受け入れ体制の強化に資する事業

（事業の例）

- ・外国人旅行客等を対象とした無料公衆無線（Wi-fi）の設置
- ・多言語対応のアプリの普及、バス停留所等の整備
- ・二次交通が不便な地域におけるレンタサイクルの普及促進
- ・Ma a S等の導入における実証実験
- ・観光スポットの環境保全・美化活動
- ・観光広報、観光促進、観光客誘客に関する取り組み 等

4. 次世代自動車の普及に資する事業

（事業の例）

- ・自動走行システム等の新たな自動車技術の導入に資する事業
- ・燃料電池自動車等の普及に資する事業 等

5. 自動車等による交通事故防止対策、被害者救済対策に資する事業

（事業の例）

- ・交通遺児一時金、交通安全の広報・啓発
- ・交通安全に資する路灯や防犯カメラの設置・修理
- ・交通安全施設等の設置 等

6. バスやタクシー等の公共交通事業者に対するドライブレコーダーやバックモニターの設置等公共交通機関等の維持確保に資する事業

（事業の例）

- ・過疎地域における地域交通の確保や、公共交通の利用促進のための広報・啓発などの環境づくり
- ・駅、空港からのバスや観光タクシー等の二次交通の利用促進
- ・公共交通の運転士の人材確保 等

7. 街づくりに資する事業

（事業の例）

- ・無電柱化など、道路環境の整備に係る事業
- ・まちづくりに係る事業
- ・景観の観点からの野立広告物の撤去に係る事業 等

8. 観光施設・拠点等の保全・整備に資する事業

（事業の例）

- ・観光施設や観光拠点の維持・保全に係る取り組み 等

9. その他、上記事業と一体となって利用者利便の向上、公共の福祉に資する事業

寄付金活用事業（制度概要③）

○ 地方版図柄入りナンバーの寄付金活用事例

地方版図柄の寄付金活用事業は令和元年度から年度ごとに募集されており、令和元年度1件、令和2年度2件、令和3年度2件、令和4年度8件の寄付金活用事業が実施された。（交付額計約1,577万円）

令和元年度事業

熊本：高齢者安全運転支援（ペダル踏み間違い防止装置補助）【交付額約358万円】

令和2年度事業

香川：反射タスキ配布キャンペーン【交付額約97万円】

徳島：にし阿波地域観光誘致ポスター【交付額約22万円】



（香川）



（徳島）

令和3年度事業

徳島：「秋冬版マイカープラン」SNS広告効果検証事業【交付額約21万円】

熊本：高齢者ドライブレコーダー設置支援事業【交付額約698万円】



（徳島）



（鳥取）

令和4年度事業

船橋：船橋市公共交通マップ作成事業【交付額約60万円】

鳥取：とっとり交通フェスタ開催【交付額約39万円】等

出雲：観光レンタサイクル事業【交付額約16万円】等

※その他、弘前、葛飾、徳島で実施。

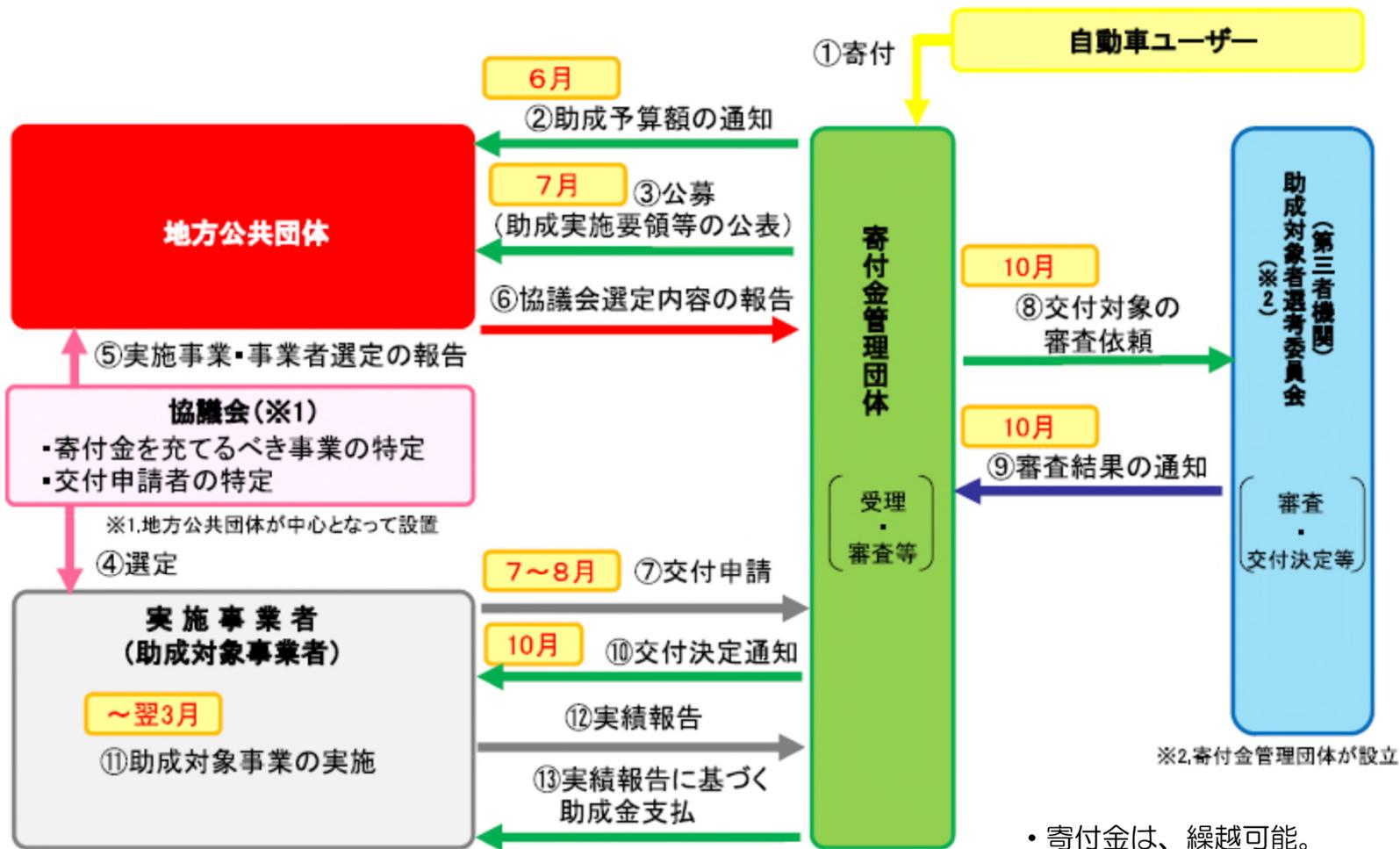


（出雲）

画像提供：（公財）日本デザインナンバー財団

寄付金活用事業（制度概要④）

○ 寄付金活用フロー



各年度に事業を行う場合は、7月には協議会で実施事業を決定する必要あり！

寄付金活用事業（本協議会の現状について①）

○ 前回会議決定事項

	決定事項	現状
普及目標	5年間で全国1位となる 普及率7% （交付開始から1年間で3%、以後毎年1%増） ※対象台数313,180台(R5.3.31時点) ※1%…3,132台 3%…9,395台 7%…21,923台	約 0.63% (R6.11.30時点)
寄付金活用事業の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 交通安全に資する事業（交通安全の啓発、防犯カメラの設置、交通安全施設の設置など） 観光プロモーションに資する事業（岡崎市・幸田町のツアー造成やコンテンツ配信の充実） 各自治体の拠点整備に資する事業（高齢者や障がい者が利用しやすい観光地への設備投資） 	
助成金予算額	2,000万円（5年間）	37.6万円 (R6年度助成金額)

<参考：令和6年度寄付金額の算定方法及び今後の寄付金額予測>

算定方法

①全国の寄付実績（令和5年度）	79,808,700円・・・(A)
②地域の寄付実績（令和5年度）	627,800円・・・(B)
③寄付金比率（B）/（A）	0.7866%・・・(C)
④全国の助成予算総額	47,885,000円・・・(D)
⑤地域の助成予算額	376,000円・・・(E) = (D) × (C)

今後の予測（算定条件①：（A）及び（D）は一定、算定条件②：（B）及び（C）は令和6年度予測が一定として算定）

	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	・	R23年度	・	R42年度	・	R79年度
各年度寄付額	37.6	27.0	27.0	27.0	27.0	・	27.0	・	27.0	・	27.0
合計	37.6	64.6	91.6	118.6	145.6	・	496.6	・	1,009.6	・	2,008.6

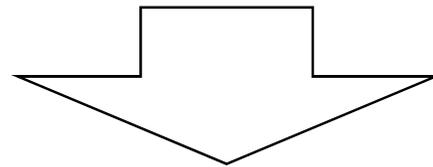
(万円)

寄付金活用事業（本協議会の現状について②）

○ 課題

課題①：寄付金活用事業の方向性が決まっているが、活用事業の順位付けの決定及び「具体的な用途」や「対象事業者の選定」までは決定していない。

課題②：前回会議にて決定した寄付金予算額の2,000万円が非現実的な数字になっている。
(実際は5年間で約150万円程度)



○ 課題解決に向けて

課題①

今回会議：各方向性の寄付金活用事業案を考慮し、活用事業の順位付けを行う。

次回会議：寄付金活用事業を行う場合、「具体的な用途」及び「対象事業者の選定」を行う。

課題②

今回会議：各寄付金活用事業を考慮しつつ、優先順位が高い事業を行う際の必要額に是正する。

寄付金活用事業（事業案）

	交通安全 に資する事業	観光プロモーション に資する事業	各自治体の拠点整備 に資する事業
想定事業	小学校新入学生反射材 着用促進事業	①ツアー造成 ②デジタルサイネージ周知	観光施設の維持・保全
想定予算額	約40万円	①約50万円/ツアー ②約120万円/個（屋外版）	未定
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・新1年生3,900人（岡崎3,400人+幸田500人）に図柄入りナンバー柄の反射材を配布し、着用することで、事故防止を図るとともに、交通安全意識の醸成を図る。 ・比較的安価に両自治体へ事業効果あり。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1つの自治体に対して事業効果がある形になるため、隔年で自治体ごとに事業を実施することが予想される。 ・ポスター制作などであれば、比較的安価に両自治体に事業効果を生むことが可能になる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観光施設の規模によって、予算額が大きく異なってくる。また、他の事業に比べて、予算額が大きくなることが予想される。 ・岡崎市、幸田町にとって維持・保全したい観光施設が異なるため、予算の分配に苦慮すること又は1自治体ごとに事業を実施することが予想される。

寄付金活用事業（事務局案）

課題①：各方向性の寄付金活用事業案を考慮し、活用事業の順位付けを行う。

⇒寄付金を活用した事業を行うことで、図柄入りナンバープレートの寄付者のみならず、寄付者以外の方にも周知に繋がるため、**予算規模が小さく、効果対象が大きい事業から実施すること**を提案する。

順位	事業名	予算規模	効果対象
1	交通安全に資する事業	小	両自治体/単年
2	観光プロモーションに資する事業	小～中	1自治体/隔年
3	各自治体の拠点整備に資する事業	小～大	1自治体/隔年

課題②：前回会議にて決定した寄付金予算額の2,000万円が非現実的な数字になっている。

⇒寄付金を活用した事業が実施可能になる予算額で十分であるため、(1)毎年20万円ほどの寄付額である、(2)予算額が少なく、効果が低い事業を毎年行う必要はない、という2点を考慮し、寄付金予算額40万円を提案する。

○ 事業実施に向けて

毎年6月又は7月に会議を開催し、6月に通知される予算額を参考に事業実施の有無及び事業内容を協議していく。